



新しい年を迎える
皆さまのご健康とご多幸をお祈りいたします
令和八年元旦



〒329-2504 矢板市泉 526

TEL : 0287-43-0402

■謹賀新年

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

旧年中は、泉公民館への温かなご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本年も、学びと交流を通じて、地域のみなさまがいきいきと過ごせる場づくりに努めてまいります。

木もれ陽のように、ささやかな光が日々の暮らしをやさしく照らす一年となりますように。

皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

2026年元旦



■祝成人

新成人の皆さま、ご成人おめでとうございます。

今まで支えてくれた人への感謝を胸に、一步ずつ自分らしい未来を切り拓いてください。

挑戦を恐れず、学びを楽しみ、地域と社会にやさしい力を注ぐ皆さまの活躍を心から応援します。

輝かしい門出に、幸多き日々がりますように。



■新春講演会のご案内

今年の新春講演会は、とちぎテレビや栃木放送の番組で活躍中の嶋均三さんをお迎えし、楽しいひと時を過ごしたいと思います。

- 日 時: R8年1月7日 (水) 14:00~
- 会 場: 泉公民館 会議室5
- 観覧料: 無料



方言指導
栃木県方言作家
嶋均三氏

■ グラウンドゴルフ大会

令和7年11月2日、澄みわたる秋空の下、グラウンドゴルフ大会を開催しました。朝のひんやりとした空気も、開会の合図とともにすぐに和らぎ、参加された皆さんの笑顔と元気な掛け声が会場いっぱいに広がりました。

今回は、優勝・準優勝・第3位のほか、ホールインワン賞など、さまざまな各賞をご用意。結果発表のたびに歓声と拍手が起り、和やかな祝福ムードに包まれました。記録に挑む真剣な表情と、仲間を称え合う温かなまなざしが共存するのも、この大会ならではの魅力です。

爽やかな風を感じながら体を動かし、笑い合い、時には悔しがり…そんなひと時が、心にも体にも心地よいリフレッシュとなったようです。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



■ 芸能発表会

令和7年11月30日、泉公民館にて「芸能発表会」を開催しました。

地域の皆さんのが日々の練習の成果を存分に披露し、会場は温かな拍手と笑顔に包まれました。

今回は、

- 松川流泉会
- 詩吟竜真会
- いづみ歌おう会
- 泉カラオケ
- コカリナくるみ百人会

の5団体の皆さんが出でてくださいました。

ご出演いただいた皆さん、そして応援に駆けつけてくださった来場者の皆さん、誠にありがとうございました。

泉公民館では、これからも地域の交流と文化活動を応援してまいります。



■正月飾りづくり

12月5日（金）、正月飾りのひとつである「しめ飾り」に挑戦しました。全員が初挑戦、10名中5名が女性です。参加者の一人は「縄を締めていくところが難しかったが、完成品が出来て満足した。今後も挑戦し、玄関に飾って正月を迎える」と抱負を語っていました。



正月飾りは、門松としめ飾り、鏡餅の3点セットです。新年を司る「年神」様をお迎えし、1年の幸福や健康を願って、大掃除の後に12月28日に飾るのが縁起いいとされています。皆様も今年は気合を入れて、飾ってみてはいかがでしょうか。

■ 区長、自治公民館長研修会



12月6日、区長5名、自治公民館長5名、集落支援員2名、事務局2名で津波災害に遭った福島県いわき市へ行き、災害時の自治会の果たす役割を考えました。

「いわき震災伝承みらい館」を見学した後、語り部による解説を聞きながら、いわき市最大の津波（8.57m）により、市街地の7割以上の家屋が全壊、流出した豊間地区などを見てきました。住民の多くが地区外に転出し、コミュニティが戻らないそうです。災害を語り継ぎ、備えることが重要と実感しました。



警察は以下の事項をすることはありません。

- ◆ SNSで連絡すること
- ◆ 警察手帳や逮捕状などの画像を送ること
- ◆ 逮捕すると言つて金錢を要求すること



■いずみ・時の旅

■ 泉村誕生秘話



明治21年4月1日に市町村制が発布されたことにより、塩谷郡長から市町村名とその区域が諮詢されました。このために、泉地区の各村から10名の代表者が選定され、協議が図られました。

まず村名については、この辺りは古来から「泉の郷」と呼ばれていたために、「泉村」とすることで決定致しました。

次に、その区域については「下太田村」と「土屋村」から意義が唱えられました。と言いますのは、この二村については「矢板村」への編入案が示されていたからでした。

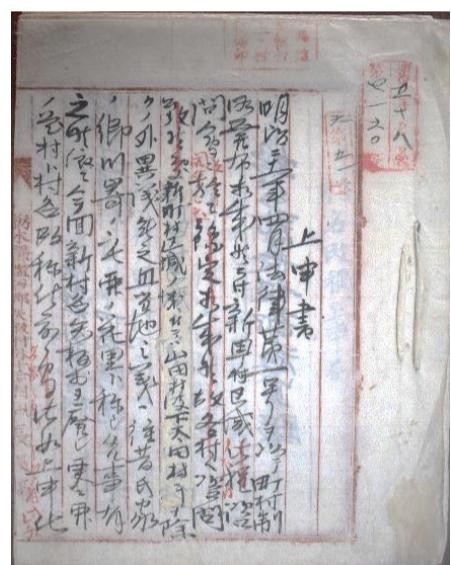
この経過を記した上申書が遺されていますので、これを原文のまま紹介しますと「…村民ハコレヲ憂イ一村協議ヲ遂ゲタルニ悉ク泉村ニ合併致度キ…」何としても泉村と合併したいと希望していました。

その理由というのは、「古来ヨリ人情風俗異常ナク水魚唇逢ノ情況」にある、つまり何百年も水魚の交わりを続けて来たのですから、今さら分離されても困るということなのでした。

更に詳しく紹介しますと、まず下太田村では「一村民挙テ泉村へ合併ヲ希望スル所ニ有之（中略）矢板村ト合併相成候テハ本村将来ノ不幸ニ」とまで訴えています。

次の土屋村については、下太田村とは事情が異なっています。それは、上流にある山田村が泉村に合併されることが大きな理由でした。「土屋村ノ儀ハ山田村ト到底離ルベカラズ」土屋村と山田村は一蓮托生、切っても切れない存在であると訴えています。これには死活にもかかわる「用水」の問題がありました。「朝ニ水十分ナルモ午後ニ至テ土屋村へ一滴ノ流水無之（中略）渴水ノ節ハ両村ニテ昼夜ツツ隔番ニ水ヲ引壠村ノ体ヲ成シ」土屋村にとっては実に切実なことであったのでした。

結局、この二村の訴えも空しく却下されて現在に至っています。今から138年前の出来事でした。



郷土史家：白石・記



●編集後記

新しい年のはじまりに、「木もれ陽」をお手に取っていただきありがとうございます。凛とした空気に包まれて、矢板の山並みは一段と澄んで見えます。

2026年も、「木もれ陽」の名のとおり、日々の暮らしにそっと差し込む光を拾い上げていきます。

どうぞ今年もよろしくお願ひいたします。



〒329-2504 矢板市泉 526
TEL 0287-43-0402